

園だより あおいそら9月号

令和6年9月3日（火）熊本大学教育学部附属幼稚園



園長のコラム

実りの多い2学期にしましょう よろしくお願いします



夏休みも終わりに近づき、台風が接近し、保護者の皆様、大変な思いをされたのではないかと心配しておりました。皆様、お元気でいらっしゃいますでしょうか。本日、2学期をスタートすることができました。一安心です。

さて、夏休みはいかがお過ごしでしたか。今年は、ご親戚とお会いになったり、行事に参加したり、旅行に行かれたりと、よりアクティブに過ごされ、お子さん達も、夏休みならではの経験ができたのではないのでしょうか。ゆっくり、お話を聞かせていただきたいと思います。

さて、夏休みの間、先生達はどのように過ごしていたかを、少しだけご紹介します。

本年度は、本園研究のまとめの年です。集中して研究に取り組みました。本園の先生達は、たくさんの研究会に参加し、その中で実践や研究を発表し、県・九州・そして全国に実践を広げました。また、1学期の実践を元に、数日間集中して時間をとり研究を進めたり、熊本大学の学生さん相手に幼児教育について講義を行ったりもしました。会に参加したり発表したりするには、事前準備も必要ですので、集中して資料作成できるのも夏休みならではの働き方です。その他に、附属幼稚園の先生たちは、県や九州単位で行われる大会の運営や様々な役割を任されますので、その準備や会運営などもみんな頑張りました。

また、大がかりに教材庫を片付けたり、マットや扇風機など普段できない所をきれいにしたりしました。2学期の準備についても、教育課程と子ども達の1学期の育ちを照らし合わせながら、計画を練り直し、行事や各学年での保育の準備などを行いました。暑い夏ですので、休みの日も、毎日当番で水掛けや動物の世話をし、2学期に繋いでくれました。24日の刈り払いについては、とってもとっても暑い中、元気に育つ草達に対抗するために、PTAの皆様のご協力、大変ありがたく、力強く思います。

2学期も、様々な楽しい遊びが展開されることを楽しみにしています。子ども達の健やかな成長のために、保護者の方のお力が必要です。職員一同元気に頑張っていきます。どうぞ、よろしくお願いします。

新しい職員の紹介 宮本浩彰 先生（熊本大学教育学部附属小学校教諭）

9月より、熊本大学教育学部の研修として本園で「幼小連携」についての共同研究を行います。実際に、保育の中に入っていただき、子ども達の学びの姿を小学校へ繋げていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今、文科省が出している、学びの連続性としての「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すものとして示されています。